

果実飲料、炭酸飲料、乳性飲料など68品目の市場を調査

2008年の加工食品市場調査(その5)

2008年見込

インスタントコーヒー

節約志向が、経済性の高いインスタントコーヒーの追い風となり前年比8.2%増の1,811億円

果実着色炭酸飲料

振って飲む炭酸入りゼリー「ファンタ ふるふるシェイカー」がヒットし前年比7.3%増の777億円

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、昨年7月から2008年の食品産業界について調査を行なっている。その第5回目の結果を報告書「2009年 食品マーケティング便覧 No.5」にまとめた。

この報告書では、嗜好飲料12品目、乳性飲料10品目、嗜好品13品目、健康飲料9品目、果実飲料11品目、炭酸飲料8品目、その他飲料5品目の計68品目の市場動向を分析した。

<調査結果の概要>

カテゴリー	2008年見込	前年比	2009年予測	前年比
嗜好飲料	2兆 49億円	98.7%	1兆9,811億円	98.8%
乳性飲料	1兆1,826億円	100.2%	1兆1,640億円	98.4%
嗜好品	8,859億円	100.9%	8,862億円	100.0%
健康飲料	7,002億円	96.8%	6,874億円	98.2%
果実飲料	5,554億円	93.9%	5,440億円	97.9%
炭酸飲料	5,387億円	101.7%	5,413億円	100.5%
その他飲料	2,805億円	100.8%	2,830億円	100.9%

嗜好飲料は、缶コーヒーが伸びているが、ジャスミン茶やそば茶を除く無糖の茶系飲料は消費者の節約志向の高まりを受け縮小している。

乳性飲料は、08年春に飲用牛乳を始め、多くの乳製品の値上げが行われた。飲用牛乳では「明治おいしい牛乳」が発売以来初の前年割れとなるなど、値上げの影響が出ている。

嗜好品は、内食回帰や節約志向が強まったことで、インスタントコーヒー、インスタントティー、紅茶、麦茶、その他茶などが需要を取り込んでいるが、緑茶は逆に購入単価の低下やギフトの贈答先件数の絞り込みの影響を受けている。

健康飲料は、06年、07年と二桁成長を続けた健康サポート飲料がマイナスに転じる見込みであるが、その市場に含まれる「ウコンの力(ハウス食品)」は、女性をターゲットとした「同 カシスオレンジ味」が発売されるなど08年も二桁増を果たした見込みであり、今後の更なる伸長が期待される。

果実飲料は、好調であった100%果汁飲料が07年の値上げの影響から、08年は減少したと見込まれる。同様に成長を続けてきた野菜飲料及び野菜入混合果汁飲料は原材料に使われている中国産野菜のイメージ悪化の影響などにより08年は前年割れが見込まれる。

炭酸飲料は、各品目が軒並み伸びている。08年はコカ・コーラシステム「ファンタ ふるふるシェイカー」のヒットが際立っているが、一方で、少子化傾向にある中で大人需要の取り込みに焦点が集まっている。

その他飲料では、国産ミネラルウォーター類の伸びが鈍化し、輸入ミネラルウォーター類は前年割れが見込まれる。健康志向の追い風を受け急成長を遂げてきたミネラルウォーター類は踊り場状態にある。

<注目市場>

1. インスタントコーヒー

2008年見込 1,811億円(前年比108.2%) 2009年予測 1,893億円(前年比104.5%)

原料豆や包装資材価格の高騰に対するコスト削減の一環として各社が販促費を抑制した結果、07年の市場は縮小した。しかし、08年は景気減退による節約志向が、経済性の高いインスタントコーヒーの追い風となり、市場は拡大したと見込まれる。トップシェアのネスレ日本は、値上げを行なったが順調に浸透し、発売した円筒状の詰め替えカートリッジの「ネスカフェ チャージ」も瓶の口に軽く押しあてて詰め替えるといった簡便性と新奇性が話題となり、詰め替え用市場を刺激している。

2. 果実着色炭酸飲料

2008年見込 777億円(前年比107.3%) 2009年予測 790億円(前年比101.7%)

07年は、コカ・コーラシステムが投入アイテム数を減らし、サントリーが「パブルマン」を終売したことが響いて、市場は2割近く縮小した。しかし、08年は各社苦戦を強いられる中で、コカ・コーラシステムの「ファンタ ふるふるシェイカー」がヒットし、市場は拡大したと見込まれる。「ファンタ ふるふるシェイカー」は振ってから飲む炭酸入りゼリーという飲用スタイルを含めた商品設計の新奇性が支持されている。09年も炭酸入りゼリーが市場を牽引すると見られる。

3. その他ティードリンク

2008年見込 250億円(前年比105.0%) 2009年予測 258億円(前年比103.2%)

その他ティードリンクは、日本茶、麦茶、ウーロン茶、ブレンドティに含まれない無糖茶飲料を対象にしている。代表的なものとして、ジャスミン茶(さんぴん茶)、そば茶、杜仲茶、中国緑茶、プーアル茶、マテ茶、燕龍茶などがある。

07年は、伊藤園をはじめ多くの企業が展開しているジャスミン茶やそば茶が伸びたが、機能性ティードリンクの上位ブランドの実績減少に歯止めが掛からず、市場は前年割れとなった。しかし、08年はサントリーが新商品を投入したこともありジャスミン茶とそば茶が引き続き好調で、また、アサヒ飲料が1月に「黒茶」、7月に「青茶」を発売し新規参入したことがプラス要因となり、市場は拡大したと見込まれる。一方、4月からの特定健診・特定保健指導制度施行に伴ってメタボ需要の拡大が期待されたが、実績を押し上げるほどの勢いは見られない。

4. 果肉飲料

2008年見込 49億円(前年比125.6%) 2009年予測 52億円(前年比106.1%)

果肉飲料は、果実ピューレ含有率20%以上60%未満の商品で、一般にネクターと呼称される。主に桃を使用した商品が中心となっている。07年は、「不二家ネクター(サッポロ飲料)」の一時販売中止が需要の激減を招き、市場が前年比40%減となった。

08年は、需要が回復に向かい、キリンビバレッジが3月に「トロピカーナフルーツリッチネクター アルフォンソマンゴーブレンド」と「同 白桃」の2商品を発売し新規参入している。市場は、需要の回復とキリンビバレッジの新規参入で前年比二桁増が見込まれるが、06年の市場規模に対しては75%程度に留まる。

08年の各社の実績は好調であることから、今後市場は拡大推移すると予測される。

5. 果汁飲料

2008年見込 38億円(前年比115.2%) 2009年予測 34億円(前年比 89.5%)

果汁飲料は果汁含有率50%以上100%未満の商品を対象としている。07年の市場は、コカ・コーラシステムの「ミニッツメイド 朝の健康果汁」の終売や、カルピスとダイドードリンコの撤退で前年比半減した。

08年の市場は、各社の既存商品の実績は減少しているが、伊藤園の「天然水割り果汁」や日本ミルクコミュニティの「Squeeze Bar」などの新商品投入があったことで前年比15.2%増の38億円が見込まれる。「天然水割り果汁」は国産天然水使用という付加価値を付けており、価格設定も350gPET=147円と高めとなっている。また、パッケージに「リラックマ」を起用し幅広い世代に向けて商品をアピールしている。

08年の市場は新商品の投入が拡大に繋がったと見込まれるが、既存商品の多くは実績減少と市場環境は厳しく、

今後は縮小推移が予測される。市場に定着する商品の登場が市場成長のポイントになっている。

以上

< 調査対象 >

果実飲料	100%果実飲料、果汁飲料、果汁入清涼飲料、低果汁入清涼飲料、ハチミツ飲料、果肉飲料、果粒含有果実飲料、トマト飲料、野菜飲料、野菜入混合果汁飲料、希釈飲料
炭酸飲料	コーラフレーバー飲料、透明炭酸飲料、低アルコール果汁入炭酸飲料、果実着色炭酸飲料、ジンジャーエール、乳類入炭酸飲料、果汁入炭酸飲料、低果汁入炭酸飲料
乳性飲料	飲用牛乳、低温殺菌牛乳、乳飲料、ローファット飲料、乳製品乳酸菌飲料、乳酸菌飲料、ドリンクヨーグルト、殺菌乳製品乳酸菌飲料（コンク）、殺菌乳製品乳酸菌飲料（ストレート）、乳類入清涼飲料
嗜好飲料	缶コーヒー、リキッドコーヒー、紅茶（リキッドタイプ）、ウーロン茶（リキッドタイプ）、日本茶（リキッドタイプ）、麦茶（リキッドタイプ）、ブレンドティ、その他ティードリンク、ゼリードリンク、ココアドリンク、缶入甘酒、缶入しるこ
健康飲料	食系ドリンク、薬系ドリンク（医薬部外品）、健康サポート飲料、機能性清涼飲料、スポーツドリンク、粉末機能性清涼飲料、豆乳類・大豆飲料、ピネガードリンク、麦芽ドリンク
その他飲料	国産ミネラルウォーター類、輸入ミネラルウォーター類、サワードリンク、トニックウォーター、炭酸水
嗜好品	インスタントコーヒー、レギュラーコーヒー、簡易抽出型コーヒー、インスタントティー、紅茶、ココア、緑茶、粉末緑茶・市販用、麦茶、その他茶、パック甘酒、粉末飲料、青汁

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献を併用

< 調査期間 >

2008年11月～2009年1月

資料タイトル：「2009年 食品マーケティング便覧 No.5」

体裁：A4判 232頁

価格：85,000円（税込み89,250円）

調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部 第一事業部

TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778

発行所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5821（代）FAX 03-3661-9514 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL：<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>